

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年9月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2771300346
法人名	医療法人 桐葉会
事業所名	認知症老人グループホームコスモスガーデン
所在地	貝塚市森853番地 (電話) 072-447-2755
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 9月 2日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 9月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤	18人, 非常勤 0人, 常勤換算 17.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	135,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	100円	昼食	550円
	夕食	550円	おやつ	0円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (平成 20年 7月 12日現在)

利用者人数	13名	男性	3名	女性	10名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.5歳	最低	78歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医) 桐葉会 木島病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に定着し精神科の専門病棟をもつ医療法人が運営するグループホームで、介護老人保健施設が併設されています。「今までの生活リズムを守る事が出来る環境を提供する」「まだ人の為に役だっていると思う事が出来る環境を提供する」「わがままを言える事が出来る環境を提供する」「その人らしく生きることが出来る環境を提供する」を理念とし、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。重度化している利用者は認知症専門の治療病棟をもつ母体病院の医師を主治医にし、長年認知症にかかわり看護師資格をもつホーム長の看護支援をうけながら生活しています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、言葉かけや態度は明るくやさしい雰囲気です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の外部評価で示された事項はなく、利用者への介護サービスについて、「介護サービス表」を使って日々モニタリングしながら、状況の変化に応じて機動的に変更・修正し介護計画の見直しにつなげていくというシステムがより確実に機能するよう更なる向上が図られていました。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、まず全職員に自己評価票を配布し、意見を書いてもらい、リーダーがまとめあげて完成させ、サービスの具体的な改善に取り組みうとしています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は貝塚市職員、民生委員、家族、利用者の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議では運営状況や利用者のホームでの生活ぶり、行事、職員研修会などについて説明し、意見交換により地域との相互の理解を深めています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度電話で家族へ報告をしています。利用者の暮らしぶりや新人職員を紹介したたより「ガーデンの四季」を発行し、家族に送付しています。預かり金については出納帳を作成し、収支と残金について定期的に家族へ報告し確認を得ています。家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表現するように対応するとともに、ご意見箱を設置し、家族の意見を表せる機会を設けています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的にホーム周辺や公園への散歩の際、またお花見や地域のだんじり祭りの時に地元住民との交流をしています。近隣や系列法人の保育園児との交流があり、敬老会では近隣の幼稚園児や小学生を招待し、演技をしてもらう予定です。地元のよさこい踊りや和太鼓のサークルの人達をボランティアとして受け入れています。
重点項目④	

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今までの生活リズムを守ることが出来る環境を提供する」「まだ人の為に役だっていると思うことが出来る環境を提供する」「わがままを言えることが出来る環境を提供する」「その人らしく生きることが出来る環境を提供する」を理念とし、利用者が地域で安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。職員が全員参加する月例の「業務・介護カンファレンス」や日々の業務等を通じて理念を共有し、理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	日常的にホーム周辺や公園への散歩の際、またお花見や地域のだんじり祭りの時に地元住民との交流をしています。近隣や系列法人の保育園児との交流もあり、敬老会では近隣の幼稚園児や小学生を招待し、演技をしてもらう予定です。地元によさこい踊りや和太鼓のサークルの人達をボランティアとして受け入れています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価訪問で示された事項は特にありませんでした。しかし、利用者への介護サービスを、「介護サービス表」を使用し、日々モニタリングを行っています。状況の変化に応じて機動的に変更・修正し、介護計画の見直しにつなげていくというシステムが一段とうまく機能するよう確実に機能するよう更なる向上が図られています。自己評価は、まず全職員に自己評価票を配布して意見を書いてもらい、リーダーがまとめあげて完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は貝塚市職員、民生委員、家族、利用者の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議では運営状況や利用者のホームでの生活ぶり、行事、職員研修会などを説明し、意見を交わして地域との相互の理解を深めています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員とは近隣市町村の利用者の受け入れや困難事例の相談等をして、サービスの向上に取り組んでいます。行政が主催する貝塚市の地域密着型対応施設の事業者連絡会にも出席しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告をしています。利用者の暮らしぶりや新人職員を紹介したたより「ガーデンの四季」を発行し、家族に送付しています。預かり金については出納帳を作成し、収支と残金について定期的に家族へ報告し確認を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応するとともに、ご意見箱を設置し、家族の意見を表せる機会を設けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全員が常勤職員であり、職員数は利用者数より多い状況です。また職員の異動もほとんどなく、利用者は馴染みの職員による支援を受けています。新人職員の採用時には見習い期間を設け、マンツーマンでの研修やトレーニングを行い、利用者には不安を与えないように対応をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームは職員が介護福祉士などの資格を取得しやすいよう支援し、研修にも積極的に参加しています。介護技術研修などの院内研修(法人内研修)は年度計画に基づいて運営され、ホームの職員も随時参加しています。院外研修(外部研修)についてもスキルアップが必要な職員や研修を希望する職員が参加できる配慮をしています。研修参加者は報告書を作成し、他の職員も閲覧できるようにしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会と大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加盟し、相互の交流や情報の早期取得に努めています。地域の小規模多機能型施設、同一法人の老健、関連法人の特養と定期的に交流し意見交換しています。市が主催する事業者連絡会にも参加しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の職員の家庭訪問、利用者や家族のホーム見学やショートステイを利用した体験入居等を通じて馴染みの関係を作り、入居直後も職員が他の利用者との馴染みの関係づくりに気を配り、家族や本人の不安を取り除き安心して入居しサービスを受けられるように取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。詩吟の得意な方、生け花が得意な方、俳画や習字が得意な方、経験が豊かで生活の知恵をたくさん知っている方等、利用者の得意分野で、家事や行事の機会を通して学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や利用者から聞き取った、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望について、その後も3ヶ月毎に「アセスメント表」にて追加・修正する再評価を行い、ケアプランに反映させて、それぞれの利用者の希望に沿った支援を行っています。飲み物はお茶だけでなく、コーヒーや紅茶、清涼飲料水、牛乳、ジュースなど色々な種類が用意されています。また、夕方入浴後すぐに夕食と晩酌を希望する利用者や一番風呂を好む利用者等の希望にも沿っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月毎に評価する独自様式の「アセスメント表」を使用しながら利用者の現在の暮らしや、心身の状況を把握し、医師の意見、利用者と家族の意向・願いを反映した介護計画を作成し、家族の同意も得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には6ヶ月毎に、状態の変化がある時はその都度見直しをしています。3ヶ月毎に再評価しているアセスメントの結果を「介護サービスの方向性・具体案」としてケアプランに反映させ、「介護サービス表」を使って、日々モニタリングし、状況の変化に応じて機動的に変更・修正しながら記録をとっています。全職員で2ヶ月毎にカンファレンスを実施し、介護計画の見直しにつなげるシステムが確立されています。実質的には2ヶ月毎の介護計画の見直しになっているといえます。家族には介護計画書と同時にケアカンファレンス議事録、これからの「介護サービス表」について説明し承認を得ています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症専門の治療病棟をもつ母体病院の主治医と医療連携を行っています。また長年認知症の方にかかわり、看護師資格を持つホーム長の看護支援も受けています。ホームの空き室を利用したショートステイを実施しています。地域のボランティアからの支援も受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療科目によっては入居以前の、かかりつけ医療機関から引き続き医療を受けている利用者がいます。母体病院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制整備も整っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、可能な限りホームで生活していけるよう、早い段階から利用者や家族の意向を聞き、状況の変化とともに、利用者と家族、医師、ホームとの話し合いを行い意向の確認を続けていく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化した方が多く、利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと好きなことをしながら暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。利用者の症状のペースに合わせ食事の時間にゆとりをもたせ、個別対応を行っています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望も入れた献立表に従い、買物、食事準備、下ごしらえ、調理、盛り付け、後片付け等の一連の作業に利用者も得意な分野で参加しています。季節の花を飾った食卓の上には、数種類の果物とお菓子も置かれ、食後に希望の果物を選んで食べることができます。職員は食事をしながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しく和やかな雰囲気を作っています。菜園でとれた野菜が食卓にのることもあります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は平均して週4回、ゆっくり寛いだ入浴ができています。毎日入浴を楽しむ利用者もいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。利用者はそれぞれ詩吟や囲碁、生け花、俳画や習字、調理、ゆかた祭り等の行事等を楽しみ気晴らしをしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	認知症状や身体機能の低下が重度化している利用者が多く、外出支援はかなり難しい面がありますが、庭でのお茶や会話、病院の売店や喫茶店にでかけ、日常的なホーム周辺の散歩や週3日のスーパーへの食材や日用品の買出し等に利用者と共に出かけています。家族と一緒に馴染みの美容院に出かけ、季節の花見にも出かけて楽しんでいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、ユニットのドアのいずれにも日中の時間帯に鍵はかかかっていません。職員の見守りで利用者は自由に外出ができるようになっています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成しています。避難訓練は年2回実施し、うち1回は消防署の指導の下で実施しています。食料と水の備蓄については冷蔵庫や収納庫に在庫があり、また、法人内の取り決めで併設の老健がホーム分の食料と水の備蓄を担当することになっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量の管理が必要な利用者については記録をとっています。栄養バランスについては、併設老健の管理栄養士からアドバイスを受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まわりには季節の花が植えられ、観葉植物、手作り作品、絵画が飾られ訪ねやすい雰囲気になっています。広くゆったりとしていて豪華さのあるリビング兼ダイニングルームには、大きな食卓テーブル、ソファが置かれ、掘りごたつのある畳敷きのコーナーもあり、その他にもいくつかの寛げる場所があります。居間には、利用者が活けた季節の花や果物、お菓子、新聞や雑誌が置かれた食卓テーブル、飲み物コーナー、レクリエーション道具、観葉植物、公衆電話もあり、壁には利用者の描いた俳画作品や行事写真が飾られていて、茶色系の色調とともに、家庭的で落ち着いた居心地のいい雰囲気です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームが準備しているベッド、机、椅子以外に、居室には利用者が持ち込んだ整理タンス、収納ケース、和机、椅子、飾り棚、花、装飾品、家族の写真、使い慣れた馴染みの古い物や生活用品を持ち込み、書道や俳画の得意な利用者は居室で趣味を楽しみ、安心して過ごせる居場所となっています。ただ、認知症状が重度化し、一部の居室で持ち込みの家具等がほとんどなく、もの淋しい居室もあるため、今後は利用者や家族と相談しながら、支援していくことが望まれます。</p>		